



<VOL163.2021.7>

もりおかクラブ事務所：〒020-0021 盛岡市中央通3-7-18 ラ・パルク中央 1階 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

今月の聖句 マタイによる福音書、7章1節

 「求めなさい、そうすれば与えられる。探しなさい、そうすればみつかる。門をたたきなさい、そうすれば開かれる。」

「王題」

国際会長	サム・サンテ (韓国)
アジア太平洋地域会長	大野 勉 (神戸ポート)
東日本区理事	大久保 知宏 (宇都宮)
北東部長	南澤 一右 (仙台青葉城)
もりおか クラブ会長	長岡 正彦

「世界とともにワイズメン」
「100年を越えて変革しよう」
「変化をたのしもう！」
「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」
「再起動、新生もりおかクラブ」

会長	長岡 正彦
副会長	山口 貴伸
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	中村 渉 (チャン)
メネット	井上 優子

令和3年8月定例会

日時、場所 8月21日(土曜日)、18時30分より、500円
アイーナ6F団体研修室3
卓話を予定しております。
第二例会 今月はお休み

会長巻頭挨拶



長岡会長

みなさまこんにちは、ワイズメンズクラブの新年度が始まりました。私の会長職も2年目を迎えました、今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

大混乱の東京ではオリンピックが始まりました。首都東京は1,300万人もの人口で、いろんな考え、行動をとる人、少数派も大勢いて、一つの目標を共有する事はまったくできない事はたからみえてよく理解できました。

民主主義の社会ですから当然で、他人の考えや行動を認め合うことの大事さをこれでもかと感じさせられております。「オリンピック反対、止めろ」のシュプレヒコール、非常事態宣言下でも自主自粛を行わず出歩いている人。もう批判をするのはやめましょう。そんな日本社会はそれでも愛すべき大好きな日本人で構成されています。コロナで死んでしまう人は無くして欲しいですし、医療従事者の人権も考えてあげなくてははいけません。

知恵をだして難局を乗り越えて行きましょう。

今年度の私の主題ですが「再起動」にしました。昨年度は心が蝕まれた一年でした。ここで区切りをつけてシャットダウン。電源再投入です。今年一年頑張っで新生もりおかクラブを達成して次の会長にバトンを渡したいと考えました。今年の具体的な目標は新規会員の獲得です。昨年度は濱塚メンの活躍により2名の脱会者を補う、2名の新加入会員を獲得できました。会員の勧誘行動は、ワクチンが行きわたり集団免疫を獲得する秋頃からは本格化していきます。どうぞ現もりおかクラブの方々、ご協力ください。

6月定例会のご報告

7月10日、18時30分～20時30分、アイーナ団体活動室3。出席者、長岡、大関、千葉、加藤、シンティア、濱塚、山口、井上、中村(敬称略)。ゲスト、石崎稜さん(僧侶、一休さん)菅野真矢さん(かきぴー)、小河原悠加さん(ぶんちん)、野崎悠矢さん(やっち)、尾形祐一郎さん(チュー)、以上13名の参加で開催いた

しました。

新年度一回目の第一例会でした。アイーナの会場予約が順調に進み、安定の例会開催になってきました。長岡も精神的な立ち直りが進み、絶好調にもう少しです。活動が活発になればどんどん調子もあがってきます。今日は盛岡市の臨済宗の僧侶石崎さんの卓話を予定しています。現役僧侶のお話はとても新鮮で楽しみです。このあと特集しております。お楽しみに。

誕生月を迎えた会員メネットはぜひ出席してほしいものです。年齢を重ねて、人間がますます魅力的になる年代です。みんなでお祝いをいたしましょう。



新年度第一回7月定例会集合写真

臨済宗、僧侶への修行

臨済宗妙心寺派東禅寺僧侶 石崎稜

みなさま初めまして、石崎稜(いしざきのぞみ)と申します。小学校3年生から盛岡YMCA本町サッカー教室に入り、4年生からベストキッズ、中学校ではジュニアユースと、YMCAでは7年サッカーをしていました。僧侶への修行が終わり、盛岡へ帰ってきましたので、ベストキッズに指導者として参加しています。



石崎稜僧侶

臨済宗妙心寺派東禅寺というお寺の僧侶です。臨済宗はほかの宗派と違い、専門道場があり修行をします。専門道場は全国に22か所あります。私が授業したのは松島の瑞巖寺の隣にある陽徳院でした。伊達政宗の正室「愛姫」(めぐひめ)を祀っているお寺です。

道場に入るためには試験のようなものがあります。志願者は玄関で大きな声で中にいる人に声を掛けます。中から人が出てきて、身上を聞きます。そこで道場に入門したい旨伝えます。しかし、現在満員のため別の道場に行ってくださいと断ります。しかし、座ってひたすら頭を地面につけて入門のお願いを続けます。朝から夕方まで、翌日も続けます、その後、6畳ひと間の部屋で座禅を行います、これが3日間。合わせて5日間の入門の試験を受けて、修行に参加します。

専門道場の生活は時間で決まっています。朝は4時起床、お勤めのお経を読みます。その後建物の床拭きをします。濡れ雑巾で床を拭きます。その後朝食、まず例外なくお粥です。ほとんどおもゆで、1合の親湯を5倍程度に薄めてあります。たくあん2枚と梅干1個がおかずです。食事のさい一切の音を発ててはいけません。すすったり箸を茶碗にぶつけてもいけません。しゃべら

先月の卓話「子供たち、一人一人を大切にするために。」弁護士 畠山将樹さんの卓話を聞いて、参加者の遠藤佐奈さん(ととろ)から感想文が届きました。一月遅れではありますが、彼女の心の響きをご紹介します。

6月ワイズ例会の講演を聴いて

岩手県立大学3年 遠藤佐奈(トトロ)

講演の根幹にあったものは、民主主義の精神だったと思います。民主主義というものは、政治体制として理解されることが多

ず、黙々と食事します。次は掃除が始まります。一日のほとんどは掃除に時間をかけます。広い道場は掃除をする場所には事欠きません。午前中が終わり、昼食ですが野菜しか食べません。夕方まで掃除を続けて晩御飯になります。薬石と言います。商事の代わりに薬を接種するという意味で薬石と言います。食後はテレビやスマホなどは無いので、9時には就寝します。

修行の中で一番大きな行事は接心と言うものがあります。年に7回あります。掃除をする時間を減らして、座禅をします。午後の時間は座禅になります。5月、6月、7月、10月、11月、12月、1月です。12月の接心が一番厳しいものです。この期間睡眠時間は2時間です命がけです。この2時間は座禅を組んだままの睡眠です。お釈迦様が空けの明星をみて悟りを開いたことに由来して12月1日から8日まで行います

托鉢という行事は、町中を歩き回ります。ひと段落してお昼をごちそうになります。この時は何でも食べます。出してくれたものは残さず食べます。お酒もすべていただきます。お酒は強くなかったのできつい修行になりました。

禅の臨済宗の大きな特徴は「公案(こうあん)」にあります。公案というのは、師が弟子に投げかける「問い」のことです。禅問答って言葉がありますが、理解することがとても難しい、難解な問いが投げかけられます。両手を合わせると音が出ますが、片手で音を出すにはどうすればいいか。考え抜くのが公案です。

大晦日の行事は、火伏の神様に成り代わり般若心経を読みながら町を練り歩きます。元旦の午前4時ころまでです。

一年半以上は修行しますが、いつまでという決まりはありません。5年、10年も居る方もいらっしゃいます。どうでしたでしょうか、私は仏事をまったく知らない状態で入門して、修行を続けてきました。なにか質問がありましたらいつでも、誠実にお答えしていきます。

いでしょう。私も今まで、そのように考えていました。しかし、重要なのはその形ではなく精神だという先生のお話は、私にとって大きな学びとなりました。

人間の尊重、自分自身や他者の尊重は、いずれも民主主義を体現したものです。しかしながら、それらが疎かにされると、自己肯定感の低下に繋がるというお話がありました。私自身、自己肯定感の低さを自覚する場面が度々あります。ですが、それも自分の性格の一面で、致し方ないものだと思っていました。そのため、「今までの教育の繰り返しに問題があるのではないか」と

いう先生の問いかけに、私は目から鱗が落ちるような思いでした。学校における相対的な序列やルールが、子どもたちに「否定される、がんじがらめにされる」経験を強いていると言うのです。教育の現場において、特に小学校では、競争が目に見えて行われない場面も多々あります。成績の順位は明かされませんし、「勝つこと」を目標とするのは運動会や体育での試合くらいでしょうか。しかし、集団で日中の生活を共にすると、自分と他者を比べる機会が自ずと現れるのだと思います。教師が「AさんはBさんより優れている」と言わなくても、子どもは他者との違いを敏感に感じ取ります。個人には得手不得手があり、学校という場においては発揮されない得手もあるでしょう。学校で発揮される能力が全てではないということ、子どもたちに伝える必要があるのかなと思いました。

さらに、教育現場の特徴とも言えるのがルールです。人間は社会的な動物であり、私はその上で、集団生活のスキルは欠かせないものだと思っています。つまり、ある程度のルールは教育現場に必要だと考えます。しかし、その存在は「(ルールを)守らないといけない」という意識として子どもたちをしばってしまうのだそうです。そして、守れないと自己肯定感が低下してしまいます。ここで、「守らない」のではなく「守れない」ということは、子どもの力では如何ともしがたい理由が発生しているということではないでしょうか。しかしながら、ルールを守ることが目的化することで「守れない」も「守らない」も混同されてしまい、ルールを守れなかった結果としての態度が叱責されてしまうのだと分かりました。ルールは既に存在し、当たり前のものでされています。先生はそれを見直すべきだと話されました。しかし、どうすれば良いのでしょうか。それまで自分が信じてきたものを突然疑い、否定することは簡単なことではありません。極端に言えば、築いてきたアイデンティティを否定するようなもので、自己肯定感を低下させてしまえば本末転倒です。私は、当たり前を疑うにはきっかけが必要なのだと思います。それこそが、民主主義の精神たる個人の尊重ではないでしょうか。自分の信ずるルールに馴染め

子どもと出会ったとき、馴染めない理由を丁寧に探り、ルールの側に理不尽な部分がないかを考えます。この理由を探る姿勢が、子どもを一人の人間として尊重して向き合っていると言えるのではないかなと思います。

講演の中でも一番印象に残った内容があります。国連の子どもの権利委員会が日本に対して行った勧告です。「市民社会における競争主義から子ども期を守ることは政府の義務である」。しかし、日本が資本主義社会である限り、大人になってからの競争は避けられません。子どもたちを競争から遠ざけることは、社会で生きる上でのスキルの未獲得に繋がるのではないかなと思いました。これに対し、先生が「競争する力は競争じゃない方法で得られる」とおっしゃったことに驚きました。確かに、競争において中心となっているのは競争の手段やその先にある結果です。そうではなく、まず個人と向き合い、その力を伸ばすことが重要なのです。個人として向き合うことで、子どもたちは競争による絶対的評価どころか相対的評価、ルールから解放されます。その力を認められる経験が自己肯定感を高めるのでしょうか。

講演を聴き、如何に自分がルールを初めとする「当たり前」に縛られているかを改めて自覚しました。「民主主義において、その主役はあくまでも個人です。」今回の講演は、その個人との向き合い方を考える上での大きな糧となりました。当たり前とされるルールや競争によって個人を測ることの危険性を理解し、個人の尊重によってそれらを疑い、さらに個人が尊重される環境ができる、というサイクルに貢献したいと思います。しかし、子どもたちに対し、大人だけがそうした姿勢で接することには限界があると思います。大人たち自身、ルールや競争の中で生きてきたからです。だからこそ、大人たちが相互に尊重できれば、同じ姿勢を子どもたちに向けられると考えます。子どもも大人も、その根本は同じだからです。その点において、私がこの講演で学べたことは、子どもを尊重する社会の形成とその手段、ひいては誰もが個人として大切にされる社会の在り方でした。

貴重な経験を有難うございました。

もりおかクラブの状況報告

7月の出席率	10/14	71 %	ゲスト5名	ビジター0名	メネット	0名		
メーキャップ	0名			7の切手		0g	累計	498g
7月のにこにこ	0円	累計	円	焼きそば	0円	累計	42,000円	
7月の石鹸	0円	累計	0円	りんご	0円	累計	0円	
7月の献金	0円			ファンド合計	0円			

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

7月のハッピーバースディ 7/18 井上 優子メネット 誕生日おめでとうございます。

細越確太メン、紫波町漆産業振興事業へ参加

細越メンが、紫波町の漆産業振興事業に合わせて協定を結び官民一体で漆産業の振興に乗り出しました。細越メンは昨年クラブ例会の卓話で漆の危機的現状を憂いて、漆の増産や漆採取の新技術の開発の取り組みを熱く訴えてくれました。その後昨

年秋、上米内山林に漆の植樹をお手伝いしてきました。JR上米内駅を起点に活動しています。さらに活動範囲は広がり、今回紫波町の漆振興にも乗り出しました。

細越メンの次世代漆協会、浄法寺漆産業、ウルシネクスト、紫波町との協定で、広大な紫波町の山林や遊休地を利用しての漆

栽培開始です。杉やカラマツなどを植林しても木材として利用するには長い年月が必要ですが、漆は5年で漆を生産できると聞きました。その技術を開発提供するのが細越メンの取り組みです。従来の漆採取よりはるかに早く漆を供給できます。その取り組みは始まったばかり。漆をまた「JAPAN」と呼んでもらえるように頑張っています。ちなみに、現在の国産漆の占有率は5%

T O K Y O 2 0 2 0 開 催 中 アーカイブス、上野由岐子

コロナが猛威を振るう中、東京オリンピックが開催され、スタートから日本選手団の快進撃が続いています。昨夜、ソフトボールの決勝戦が行われ、日本がアメリカを下し金メダルを獲得しました。13年前の北京オリンピックの再来でした。日本のエースは、あの時と同じ上野由岐子、2-0の得点差以上に日本の方が強かったと感じました。感動の嵐に飲み込まれました。近づいている台風8号、同じように嵐に飲み込まれそうです。それでは、上野由岐子さんのアーカイブスです。2008年8月の記事です。



頑張れニッポン！オリンピック開催中です。メダルがたくさんとれています。スポーツ大好きな私は毎日が充実したスポーツ観戦を行っております。オリンピックの良いところは、普段見る事ができないスポーツがたくさん見られる事です。世界のトップアスリートが、力の限り競う姿に感動の連続です。我が日本選手団の中で一番根性があると感動したのは、ソフトボールの上野投手でしたどんなに報われなくても、黙々と投げ続ける姿に涙を流しました。ありがとう上野さん。オリ

ンピックは4年に1度です。それまでに費やした時間に比べて、本番の時間のなんと短い事でしょう。ほんの一瞬の本番のために、日々積み上げた努力。頭が下がります。そして、死闘の決勝戦、見事に金メダル獲得です。辛抱している上野さんを神様が微笑んでくれました。味方の守備も上野さんを助けてくれました。先月号で、ブリテンの発行に苦しんでいるなどと愚痴をこぼした私は根性なしです。比べること自体次元の違う問題ですがブリテン発行ごときに弱音をはいてはいけません、なおいっそうがんばります。私にも仲間が確実にいます。みなさんよろしく。

です。重要文化財の補修に欠かせない漆、さらに世界に向けて輸出できるまで日本国内の漆の増産に取り組んでいます。先月の例会でお会いした時、植樹した木は順調に成長しますかと伺ったところ、遅霜に芽が枯れてしまったとおっしゃっていましたが、漆は丈夫な木ですから、きっと成長を続けていると思います。こんど漆の森に行ってみようと思います。

もりおかクラブが発足して2年半が経過したころの記事でした。思い起こせば当時は、「なんで私だけが毎月ブリテンを編集発行しなければならないの」とクラブ内に不満を持っていたの思い出しました。そんな不満ややりきれない気持ちを吹き飛ばしてくれたのが、上野さんでした。そして2021年、13年後にもう一度、やる気と勇気を私に与えてくれました。なんとお礼を言えいいのでしょうか。もりおかクラブのみなさん、ワイズの活動に心を込めて取り組みましょう。それにしても上野さんの写真は若いですよ。

盛岡に夏が到来、猛暑と蝉が大合唱

何という年でしょう、雪解けから始まり春爛漫、爽やかな季節を過ごして、梅雨入り。あつと言う間に梅雨明けし、猛暑の夏を迎えたのは今月中旬。去年の事を思い起こし、夏が無いまま秋になったのを思うと、1ヵ月ずつ季節が早く進行しています。連日の30℃越え、35℃以上の猛暑日も4日連続記録しました。

この夏を謳歌しているのが、セミの軍団です。まさに軍団の大合唱。夜明けとともに鳴きだします。1番はヒグラシ「カナカナ」と朝を告げます。2番はアブラゼミ「ジージー」と今日の暑さを予言します。3番はツクツクホーシ「ツクツクホーシ」と季節感満載です。負けじと、ミ



ミンミンゼミ「ミンミンミンミ」。まさに夏です。真昼で35℃を越えようと、セミ軍団はお昼寝にはいりません。静かな午後のひと時を過ごしたあとアブラ、ツクツク、ミンミンが鳴き、鳴きつかれた夕方方にはヒグラシがまた「もう夕方だよ」と鳴きだします。今は、軍団の数が最大数なのでしょう、森から飛び出して、なんと網戸にへばりついて鳴きだしました。びっくりします、至近距離で鳴かれる経験がありますか？。「うるさ〜い」の一言でしか表現できません。中から指ではじいてやると、びっくりして飛んでいきます。せみのほか、トンボや蝶々、王様のオニヤンマも来ます。そして秋の風物詩夜を楽しむ虫たちも鳴きだしました。みんな夏を謳歌しています。

編集後記

臨済宗道場の食事で、使った茶碗を洗わずに指でなぞって終わり、という話に衝撃を受けました。千葉メンが高校生のころ不良行為の罰で道場に3日間缶詰で修行をしたそうです。そこからこんな話がでてきました。私は、ナンセンスだと感じましたが、修行そのものが人知を超えた世界であるのでしょうか。私には出来ません。それだけで、石崎稜僧侶に尊敬と称賛を覚えます。あなたはすばらしい。



花びらに影が映っています。

3日前、夕方の太陽を花の後ろから浴びた、タチアオイの花を見ました。花びらに影が浮いてなんとも幻想的な風景にちょっと感動した次第です。このタチアオイ、ゆうに3mは越えています。ひまわりと競って、大型の夏の花ですね。夕立の雨を受けるとほとんど倒れてしまいます。終わり方がなんとも切ない花です。